

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 27 年 12 月 21 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3491100289		
法人名	株式会社 アーバン・ケア		
事業所名	グループホーム「なでしこ」		
所在地	尾道市吉和町5-1-22番地1 (電話) 0848-25-2772		
自己評価作成日	平成27年12月3日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=3491100289-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成27年12月17日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

開所して間もなく5年目を迎えます。入居者さんのお世話をさせて頂いているなかで、特にこの1年の間で大きな出来事であったのは、初めて施設内で2名の入居者さんの看取り介護をさせて頂いた事でした。長い人生を歩んでこられ、縁あって私たちと過ごされ、そしてその最後を私たちが看取らせて頂いた事については、ご本人はもとよりご家族の心境も慮る、施設職員の心構えを勉強しました。今後もこのような場面に接する事も増えてくるかと思いますが、ご本人やご家族にとっての施設のあり方について、試行錯誤をしながら、日々のお世話に取り組みたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

玄関を中心にして、東西に翼を広げたように各ユニットが広がり、和風の平屋作りながらも、モダンな造りの当事業所は、日当たりも良く、居間に続くテラスやリビングのフロアーの一部が畳敷きであったり、トイレ内にシャワー室が設置される等の特徴的な工夫が随所に施され、利用者・職員が、安全で落ち着いた生活が送られるようになっている。近隣は、最近開発された真新しい住宅群と、旧家が入り混じった住宅街で、事業所との交流も活発で、お互いに協力的且つ親密な関係にあり、医師による月2回の往診や看護師の週1回の訪問等、医療体制が充実していて、家族の安心感と負担軽減に繋がっている。所長を始め、管理者・職員の方々の温厚な人柄や、日々の食事が一般家庭と同様の、暖か味のある物となっていて、家庭的な雰囲気に包まれた事業所である。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所の理念項目のひとつに“地域交流”を掲げ、施設として地域の行事に参加をさせて頂いている。	法人の理念が玄関、及びリビングに掲示され、何時でも誰でも確認できるようになっている。開設5年目を迎えようとしている現在、法人理念を踏まえ「なでしこ」独自の理念を作成するべく、職員で話し合いを行い、事業所の目標・個人の取り組み事項をより具体的に明確化し、理念の共有と実践が一層前進するよう取り組まれている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会長や民生委員のはからいで、敬老会やお祭りなどの町内の行事のお招きを頂いている。	日常的に交流がなされ、地域行事を通じて、新たな方々との交流や親交をさらに深める状況が伺える。利用者が一人で敷地内に居られると、周辺地域の方から通報があったり、事業所の花壇にと花の苗を届けたり、避難訓練に多数の住民参加が見られる等、将に理念に則った事業所の努力が具現化している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	敷地入口に掲示板を設置し、地域住民の方々にむけて、施設内の取り組みを紹介している施設だよりや、運営推進会議の案内、またその議事録を掲示している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議の開催ごとに、施設行事などの運営状況や事故の報告、その他参加者にむけての福祉関連の情報などをまとめたレジメを作成して、議事をすすめている。	定期的開催される運営推進会議には、家族・民生委員・地域包括支援センターの職員の参加により、活発な意見交換が為され、会議内容もヒアリハット、事故報告等詳細に報告され、中身の濃い有意義な会議となっている。添付される資料等も分かりやすく、家族にとって介護・福祉に関する知識を得る事が可能で、資料は全家族へ送付されている。	運営推進会議参加メンバーとして、地域住民（町内会役員）の方々の参加や知見を有する方、未だ参加されていない家族等の拡大について工夫される事と、ヒアリハット・事故報告について、その原因分析や対応策まで踏み込んだ取り組みを実行・定着させる等、今以上の有意義な運営推進会議となるよう期待したい。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営上の疑問や質問事項があれば、逐一相談に赴いたり、事故報告も滞りなく提出している。	市町の担当者との連携は、主として副所長が対応されている。各種報告や連絡、相談等は機会ある毎に役所に出向き、担当者から指導・支援を仰ぎ、緊密な連携が図れるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>介護現場において、職員の意識ない行動により行ったケアが、身体拘束につながるであろうものを発見したら、直ちにその理由を説明して止めさせている。また、建物内は、利用者は自由に行き来してもらっており、玄関の施錠については、天候の状況や職員の目が届く状態であれば常に開放している。</p>	<p>管理者は、常に身体拘束に関するきめ細かな指導に努め、事あるごとに職員と意見交換を行い、最善策について話し合う事で、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。玄関ドアのオートロックについても、「いかにして解除するか」を現在模索中である。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>法に照らし合わせた形での研修は行っていないが、TV報道などによる虐待の事実は、決して他人事ではないといった注意喚起は、ケア会議などでも行っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>実際に成年後見人が就いている入居者さんを通じて、機会があれば後見人制度についての概要や手続きを説明している。また、成年後見人が就いた入居希望の方も、分け隔てなく受け付けている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居契約時に内容の説明はもちろん、それ以降でも疑問点や質問があれば、いつでも受け付ける旨を説明している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>玄関に苦情受付箱を設置している。また口頭によるご意見の受け入れも行っている。</p>	<p>誰でも、何でも言える環境作りと、利用者・家族に対し、積極的に意見・要望を引き出す働きかけを常に心がけている。利用者からは、日々の会話から、家族からは来所時に、それぞれ要望や気がついた事を聴取し、連絡帳に記載して、全職員が共有し、事業所運営に反映させている。家族からは、外出や衣類に名前を記入し間違いないようにとの提案があり実行に移した。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月開催している職員会議の席で、意見や思いを交換する場面を設けたり、言いにくい事は、現場主任に伝えてもらうなどの体制を構築している。</p>	<p>月1回の職員会議で意見、要望を聞くよう機会を設けている。又、主任制度を採用し、職員が忌憚のない意見を述べられるように取り組んでいる。職員からは、個人面談の実施や夜勤の回数、薬袋にホッチキスの使用は危険なので他の方法に変える等の提案が見られ、即刻改善、対応されている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>ストレスを抱えやすい職務において、できるだけ時間内に業務を済ませて、残業が発生しないような勤務内容の構築を図っている。また、発生してしまった残業分については、法に定められた通りの時間外手当を支給している。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>外部への研修参加は、未だ十分に行えていないが、施設内において、実際の介護技術についての研修会を開催している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>近隣の同業施設（にしごこの家）内で行われる行事や、地域に向けて行っておられる交流会に参加をしている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>入居を前提とした面談の場で、「今一番気になっている事は？」といった質問内容で、ご本人が抱えている思いやニーズを探ろうと努力している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族に対しても、前記のとおり施設側の意向に沿った質問ではなく、できるだけご家族の生の言葉を聞き出すような会話ができるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居申し込み段階で、グループホームの利用が、ご本人擁護やご家族の支援に叶ったものなのかを、共に検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	意欲や動作が可能な入居者さんには、積極的に家事を行ってもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	病院受診なども可能であれば、ご家族にお願いをしている。それが叶わなくても、その内容や経過を、逐一ご家族に報告や連絡をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会時間は特に定めておらず、自由に来所ができるような体制を構築している。	行き付けだった喫茶店でコーヒーを飲んだり、好物のお菓子やパンを買いに行く等、利用者が平素慣れ親しんだ場所や、友人・知人に会いに出かけ、時には外泊も可能で、これまで築いてこられた人や場所との繋がりが継続するよう支援されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	気が合う入居者さん同士は、ユニットの分け隔てなく交流をしてもらい、他者とのコミュニケーションが困難な方には、職員が係わるよう努力している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	お亡くなりによる退居となった方の葬儀に参加したり、自宅近くに立ち寄る機会があれば、仏壇に線香をあげるために訪問をしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	意思の表出が困難な入居者さんには、その生活歴やご家族の話に基づき、ご本人の思いを探ろうと努力している。	アセスメントやケアプランに反映されている利用者に関する生活歴、各種情報を踏まえ、その人、その人の思い出や嬉しかった事、懐かしい事等を話題の中心に据え、その語らいの中から、思いや意向を把握するよう取り組んでいる。意思表示の困難な利用者については、家族と一緒に試行錯誤しながら、利用者の意向把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に、ご家族から施設職員が知り得ても良い範囲で、ご本人の生活歴を伺い、それに加えて前事業者等からの経歴などをまとめ、それぞれの個人記録に綴っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	可能な方には、積極的に家事を行ってもらったり、歌唱などの趣味も謳歌してもらっている。しかし、外出支援は充分に行えていないのが現状である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>介護計画書を作成するにあたり、まずはご家族の思いを聞き出したり、現場目線でのアセスメントを現場職員に行ってもらい、計画作成者が客観的な視点から、ケアの有り方についての内容を検討している。</p>	<p>利用者毎に担当職員制が敷かれ、先ず担当者がセンター方式によるアセスメントを行い、仮計画を作成し、ケアマネージャーの検証を経て、事業所独自の介護計画が出来上がっている。関係者は毎月1回ケアプランについて話し合い、6ヶ月毎に医師・利用者・家族の意見を参考にしながら、担当職員・ケアマネ・副所長とで協議し、介護計画が見直され、状況により随時変更されている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の生活記録は、個人ごとに時系列によって書き込んでいく形式の書類を使用している。そして必要であれば、職員間の申し送りや伝達事項の根拠としている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ変わるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>ご家族に対しても、前記のとおり施設側の意向に沿った質問ではなく、できるだけご家族の生の言葉を聞き出すような会話ができるよう努力している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>入居者本人の身体面、精神面の変化に対しては、よりベターなケアができるよう、医師の紹介で新しい医療機関の受診などを積極的に行っている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>主治医の定期的な往診時には、口頭のみではなく書面による日頃の様子や伝達を行ったり、必要であれば他の医療機関の紹介を行ってもらっている。</p>	<p>従来から利用してきたかかりつけ医、事業所の協力医の選択は、利用者・家族の自由で、かかりつけ医、協力医共に、月2回往診に来られている。看護師も週1回、全利用者のバイタルチェックや医療対応を行い、緊急時や専門医（外科・耳鼻科・歯科等）受診は職員が対応し、適切な医療対応が行われている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	毎週一回出勤する看護職員にたいしては、日頃の様子を記録や口頭で説明を行い、爪切りや浣腸といった医療行為を行ってもらっている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	入院時には、そのケアがスムーズに行えるよう、日頃の様子を介護サマリーにまとめて、先方の医療機関に提出をしている。また、ご本人やご家族を励ます目的で、お元気な表情の写真をパネルにして、お見舞い品としている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	ご本人の参加は難しい場面が多いため、面談内容や日常のケア記録を確実にを行い、ご家族や主治医、そして施設の思いや考えに、食い違いが生じないように努めている。	入所時に、「重度化した場合に於ける（看取り）に係る指針」に従い説明し、「看取りに関する同意書」を作成、事業所と家族・利用者の同意が確認されている。又、看取り時は家族の付き添いも可能で、今年度3名の方の看取りを経験されている。評価当日も遺族の方が来所され、心からお礼・感謝の言葉を述べられている場面に遭遇した。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	通常、急変時には、主治医とご家族に連絡する事は徹底している。また、その判断方法や連絡方法に個別の事情がある場合には、個別にマニュアルを作成して、いつでも閲覧できるようにしている。		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	消防署職員の立ち合いのもと、主に夜間を想定した避難訓練や、救急処置の技術習得を目的とした講習を、定期的に行っている。	消防署指導の下、近隣のグループホームと共同で、地域住民（10数名参加）も含め、避難訓練を年2回実施（うち1回は夜間想定）している。事業所間のホットラインも設置し、互いに避難場所の提供や協力体制の構築が出来ている。目下、地震・津波等への対応を協議し、対策を検討中である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	親しみを込めた言葉遣いと、馴れ馴れしい言葉遣いは違うという意識を、日頃から持たせよう喚起している。	親しく接する中でも、人格の尊重やプライバシーの確保に留意した節度のある対応が為され、家族や友人が来所時に見聞きされ不快感や疑問が生じないよう、常に心がけている。万一、不適切と思われる様な事があれば、指導者は勿論、職員間でもさり気なく指摘しあえる環境が出来ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日頃の会話を基に、ご本人の要望や願いを否定せずに聞き入れるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	生活のリズムを整えるといった目的で、認知症の周辺症状による昼夜逆転といった状態ではない限り、ご本人のしたい事を優先するよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	衣類の着合わせを整えたり、食べこぼしやシミ、汚れがなくとも、毎日洗濯している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	可能な方には、食材の下ごしらえや皿洗いなどを積極的に行ってもらっている。	生鮮食品は、近隣のお店で調達し、加工食品等は配達してもらい、意識的に一般家庭の味に拘った食事を提供している。利用者と共に下ごしらえ、トントンとまな板の音、食欲をそそる臭いが、今日はなんだろう？お味は？と興味が湧いてくる。又、時としてバイキング、バーベキュー、焼き芋等をテラスで楽しんだり、適度な外食も取り入れて、食事が楽しみとなっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	食事や水分の摂取量は、日々の個人記録に詳しく書き込み、その日の夜間帯に別途書き込んだ集計表にも記載して、日々のケアの参考になっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後に歯磨きや口腔内の清掃を行い、夜間は義歯の漬け置き、その他必要であれば、歯科医師の診断も受けてもらっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	離床が困難な場合を除き、自立歩行が不可能な方も、毎朝定期的に便座に誘導して、トイレでの排泄がなされるよう支援している。	「トイレでの排泄と毎朝全員トイレに行く事」を基本とし、排泄パターンの把握と利用者独特の動作・表情（サイン）に従って、適切なトイレ誘導を行い、排泄の自立支援に努めている。全員が毎朝トイレに行く事を実行した事により、昼間の排泄の失敗が無くなり、排泄の習慣を再度取り戻した利用者が多数に上る。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分接種の促しや、排便を促す食事の提供、そして主治医の処方による下剤類を適宜使用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	すべての入居者さんに、毎日入浴して頂く事はできていないが、入浴を拒否される方も含めて、定期的な入浴支援をするよう心掛けている。	週2回、午後（12時～16時の間）の入浴が現状である。入浴時はゆとりを持って職員と利用者の触れ合い、浴槽に浸りながらの会話を大切にし、「さっぱりした」「気持ち良かった」との利用者からの声が聞かれるよう努めている。又、季節毎に菖蒲湯・ゆず湯や入浴剤も取り入れている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>入眠時間は個人ごとに時間差をつけている。必要であれば、主治医の処方による入眠剤も使用してもらっている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>直近の処方箋を個人ファイルに綴じて、いつでも閲覧できるようにしている。また、処方内容に変更があれば、全職員にも周知できるよう、個人毎に記録したものを申し送りしている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>カラオケや塗り絵といった趣味のほか、テーブル上に生花を活着て楽しんでもらっている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>室内で過ごす時間が、長くなってしまう事は否めないが、可能な範囲で散歩や、買い物喫茶といった外出の支援を行っている。</p>	<p>昨今は、利用者の介護度や運動能力の低下で、外出支援が充分でなかった事を踏まえて、各利用者の気持と体力を考慮した外出支援の在り方を職員間で話し合い、体力に応じた散歩やドライブ、買い物等を支援して行き、外気に触れ、新たな人との出会いによる心身のリフレッシュに取り組んでいる。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>希望があれば、ご家族の了承を得て、いくらかの現金を財布に入れて、自己管理をしてもらっている。そして外出時にはレジでの支払いを自身で行ってもらっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	親族や友人、知人からの手紙や、たよりは本人に直接手渡しして、開封をもらっている。また希望があれば、ご本人に電話口に出てもらっている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	転倒などの事故がないよう、床面に不必要なものを留置せず、広いリビングを自由に行き来してもらえよう心掛けている。	玄関を中心にし、左右に各ユニットが配置され、相互に行き来できるようになっている。建物全体がグループホームを意識した設計で、広さ・色彩・構造面で様々な工夫がなされ、快適に過ごせるようになっている。例えば、居間の一部にある4.5畳の畳部分は、季節に応じて色々な活用が出来、南側に続く広いテラスと共に気持の面でも「ほっと」安らぎを感じる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブルやソファ、玄関奥の応接室など、自由に行き来してもらっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	各自の馴染みの物を持ち込んで頂く事はもちろん、施設内で撮った写真やご自身の若かりし頃の写真も、大きく引きのばして居室に掲示している。	ゆっくりと寛げる、適度の広さの部屋には、ベッド、整理ダンス、空調が備え付けられ、使い慣れた物や馴染みの物を持ち込み、利用者の思いや行動力に合わせた部屋のレイアウトがなされ、居心地良く過ごせるようになっている。又、家族の写真等がない利用者には、家族が面会に来られた時の写真、平素のスナップ写真をパネルに拡大し、さり気なく掲げる等の配慮も見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	リビングや居室において、ご本人が使い易い大きさや重量のテーブルや整理棚を自作して、使ってもらっている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームなでしこ

作成日 平成28年1月30日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	外出支援が入居者全員に行き届いていない (前回からの継続)	全員の外出支援を行う	外出が不可能な方でもベランダに出て外の空気をすって頂く事も外出支援であると解して取り組む	1年間
2	13	管理者以外、施設外研修に参加できていない (前回からの継続)	研修参加の機会を増やす	順次、各自の能力に見合った研修の参加を促す	1年間
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。